

# 令和6年度 第2回学校評価考察

能登町立小木小学校

	重点目標	評価の観点	評価：達成度判断基準	総合	達成状況（考察と改善方針等）
1	<p>確かな学力の向上</p> <p>①学習規律の徹底と学習習慣の定着</p> <p>②主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善</p> <p>③ICTの活用</p> <p>④特別支援教育の充実</p>	<p>＜成果指標＞</p> <p>・「算数で、理由をはっきりさせて説明していますか。」と答える児童の肯定的評価</p> <p>＜成果指標＞</p> <p>・「ノート指導などの学習規律・習慣を継続的に指導している。」と答える教職員の肯定的評価</p> <p>＜満足度指標＞</p> <p>・「意見交換の場を確保し、考えを磨きあう授業を進めている。」と答える教職員の肯定的評価</p> <p>＜努力指標＞</p> <p>・「ICTを活用した授業に取り組んでいる。」と答える教職員の肯定的評価</p> <p>＜努力指標＞</p> <p>・「特別支援教育の観点から授業を工夫している。」と答える教職員の肯定的評価</p>	<p>児童アンケートで肯定的評価が</p> <p>A : 80%以上 B : 70~80%未満 C : 50~70%未満 (60.5%) D : 50%未満</p> <p>教職員アンケートで肯定的評価が</p> <p>A: 80%以上 (100%) B: 70~80%未満 C: 50~70%未満 D: 50%未満</p> <p>教職員アンケートで肯定的評価が</p> <p>A: 80%以上 B: 70~80%未満 (77.8%) C: 50~70%未満 D: 50%未満</p> <p>教職員アンケートで肯定的評価が</p> <p>A: 80%以上 (90%) B: 70~80%未満 C: 50~70%未満 D: 50%未満</p> <p>教職員アンケートで肯定的評価が</p> <p>A: 80%以上 (90%) B: 70~80%未満 C: 50~70%未満 D: 50%未満</p>	B	<p>○教職員の成果指標は、肯定的評価が100%である。ノート検証で達成度を確認しながら、ノートでの適切な表現を求めてきた成果である。</p> <p>○ICTの活用と、特別支援教育の観点での授業について、どちらも教職員の肯定的評価は90%である。来年度も、校内研修と実践を繰り返しながら、より質を高める必要がある。</p> <p>・児童の成果指標の「算数で、理由をはっきりさせて説明していますか。」は、肯定的評価が60.5%であった。一問一答であったり、適切な表現につながる児童同士の対話が不足していたりすると言える。後期学力向上プランの「発表をつなげようカード」の取組を、より児童が主体となって行う必要がある。そのために、教師の発話量を減らし、他の児童の発表を真似てでも発言したことを価値づけ、児童の発話量を増やしていきたい。そうすることで、意見交換の場が確保され、考えを磨きあう授業が展開されると考える。</p>

<p><b>2</b> 豊かな心と社会性の育成</p> <p>①海洋教育を基盤とした心の育成 ②人間関係づくりと社会的ルールの定着 ③積極的生徒指導の充実</p>	<p>○満足度指標の肯定的評価が 100% となった。休み時間の体育館や複式学級などで見守りの先生に入っていたことや、リモート学習、家庭訪問など職員による働きかけの成果だと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は楽しいと答える児童が 76.7% と第 1 回より高くなったが、高評価とは言えない。子どもに寄り添った発達支持的生徒指導の充実や子どもを認める声掛けが求められる。</li> <li>・生徒指導や特別支援教育に関する校内研修を計画的に行い、全職員での共通理解を図っていく。</li> <li>・Q-U 等のアンケートで気になる児童については、個別に面談を行っていく。</li> <li>・保護者からの信頼と学校の教育活動への理解をこれからも得いくために、こまめに児童・保護者とのコミュニケーションをとっていく。</li> </ul>
<p><b>3</b> 保護者・地域に信頼される学校作り</p> <p>①安全・安心な学校 ②保護者、地域との連携</p>	<p>○学校は、子どもの事について気軽に相談できると答える保護者が 100% となった。子どもの様子を学級だより等でお知らせしたり、普段からこまめに連絡を取り合っていたりする成果と考える。</p> <p>○海洋教育を中心に、地域に出かけたり、地域の方々をゲストティーチャーとして招いたりして地域から学ぶ授業を計画する教職員が増加した。</p> <p>○ホームページの更新は、情報担当が職員へ啓発することで頻度があがっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童一人一人について担任や職員が丁寧に対応、説明できていると考える。気軽に相談できる学校を意識し継続して取り組んでいく。</li> <li>・学校だより、学級だよりは具体的な内容でこれからもわかりやすく作っていく。</li> </ul>

<p>4 プロとしての自分を磨き、子どもに関わりきる教職員</p> <p>①服務規律の遵守 ②教職員の資質・授業力向上</p>	<p>○全指標で100%の高い評価となった。</p> <p>○3学期は、これまでの校内研修や校外研修で学んだことを生かして、学校をより安全で快適な学習環境となるように努め、来年度へとつなげていきたい。また、学習指導の力を、教員みんなで高められるように、3学期の終わりまで、学校研究を追求していきたい。</p> <p>○「服務規律を遵守する」も100%となっているが、気を緩めることなく、教職員としての自覚を持ち続けることができるよう、日ごろから気をつけたい。</p>
<p>5 多忙化改善・業務の効率化</p> <p>①働き方改革の意識 ②業務の効率化の推進</p>	<p>○前期に引き続き、教職員の業務改善の意識が高い。</p> <p>○後期は、業務改善という視点で会議の簡素化、主任業務の見直しに加え、業務が平準化するように具体的な取組を進めることができた。</p> <p>・退校時刻の確認（最終退校時刻19:00）を行い、仕事の優先順位をつけ、見通しをもって自分の業務を行えるように、引き続き業務の効率化や声掛けを行っていく。</p>